

特別講演

テーマ「日本精神と武道」

講師：清水 潔（皇學館大学 学長）



日時：平成 28 年 9 月 7 日（水）14：00 ～ 15：00

場所：皇學館大学 6 号館 621 教室

日本神話に、伊弉諾・伊弉冉尊が天の浮橋に立って、天の瓊矛をもって青海原をさぐられたのが元となって大八洲が出来たと伝えるように、わが国は国土創造の初めから既に神聖な武器と深い縁故があり、故に細矛千足国と号けられ、開闢以来「尚武」の国として外敵の侮りを受けない国であったとは、山鹿素行以來說かれて来たところである。

武道、武士道と云わないまでも、万葉集歌や平家物語を繙いてみても、武門の誉れ高き家系に生まれ、その家の名を汚すまいとする精神に満ちていたことが知られる。しかしそれは単に武技武術武芸に秀でていることのみを云うのではない。特に近世においてその精神性が重んじられるようになった。

武士に求められた精神性に、利財に心を動かされることなく、分に応じて足るを知り、義を重んじて恥を知り、義勇の精神を重んじたことは、多くの先哲の説くところである。その所説の一端を紹介しながら、今日の教育界において忘れ去れた日本人の精神性の回復に、武士道の復活が極めて重要であることを、改めて考えてみたいと思う。